



三輪さんとの出会いからこれまで、そしてこれから

三輪眞弘先生、長年のお勤めお疲れ様でした。三輪先生と初めて出会ったきっかけは、僕が大学3年で、ちょうどコンピュータで作曲とかはじめたころだったので2000年だったかと思います。僕が通っていた大学で特別レクチャーが行われ、そこのゲスト講師として三輪先生が来ていました。レクチャー内で紹介していた作品は、「《私の好きなコルトレーンのもの》 ヴィオラ・ダ・ガンバとチェンバロのための」、そして「《新しい時代》モノローグ・オペラのための」だった記憶があります。これらは僕がそれまで見聞きしていたような現代音楽や電子音楽のどれとも違うもので、とてもびっくりしたことを憶えています。僕はびっくりした気持ちのまま、テレホーダイ時代のインターネットで色々調べて、MAXサマースクールに参加したりしました。弟子にしてくださいというメールなども送りました。そしてIAMASへの入学を決めました。IAMASでは三輪先生からの指導のみならず、現在でも関係の続く学友含めたすべての環境から多くの刺激をもらいました。音大にいたころとは全く違う広い視野を持てたのはここで経験を積んだおかげです。IAMASの2年間はあっという間でしたが、その後も関係は続いており、三輪先生のコンサートがあればできる限り足を運んだし、三輪先生も僕のコンサートに足を運んでくれて、今でも忌憚のない意見とともに激励してくれます。きっとこの関係はまだ続くのかと思います。これからもどうぞよろしくお願いします。

安野 太郎 やすの たろう（愛知県立芸術大学准教授）